

2年たらずで選手数を倍増させた、 ある少年野球チームの施策例と現状

小学館

コミックス企画室 編集長 宮坂保志



自己紹介

- 宮坂保志(みやさか・やすし)
- 小学館
- 雑誌や書籍の企画で、野球を中心に国内外で数百名のスポーツ選手を取材
- 川崎市の学童軟式チームで、2007年から監督・コーチ

『まんがMAJORで考証 少年野球チーム診断』



＜内容＞

スポーツ庁の政策と日本スポーツ協会の指導者養成プログラムに沿って、30項目にわたりチームをチェック

- 小中学生の野球の現場にはびこる「悪しき慣習」が、こどもの野球人口激減の大きな原因となっている
→スポーツ界の新常識を日本の野球にも

何が「悪習」か

<例>

- ・暴力
- ・罵声
- ・一方的な指示
- ・十把一絡げ
- ・根性論
- ・長い練習
- ・勝利至上主義
- ・喫煙
- ・アンフェアなプレー
- etc.

→ 事故やケガ、事件などにもつながる可能性が

選手が6人になってしまったチームが、 2年たらずで30人近くに

<考えられる選手減少の理由>

- × 少子化？
- 少年野球は地域で評判が悪い
(例)・罵声 ・煙草
 - ・駐車公害など近隣の迷惑 ・お茶当番(お茶出し)
 - ・お金がかかる ・大人同士がごたごたしている

→「悪習」が要因となっていることが多い

効果を感じた3つの施策

1. スポーツ少年団になった

…「ウチはスポ少ですから」

暴力の根絶 プレーヤーズファースト コーチング

フェアプレイ

科学的根拠をもとにした指導

地域活動への参加

→「指導者のあり方」を盤石にする

効果を感じた3つの施策

2. AEDを購入した

…「安全第一」の象徴

氷の常備 運動制限

活動時間の短縮

熱中症計(WBGT計)

胸パッド

公認指導者の増加

→ → チームへの信頼を作る



効果を感じた3つの施策

3. 地域のティーボール大会を主催した

<方法>

地域の小学生を集めて3チームに分け、総当たり戦を3週にわたり行い優勝を争う。3回とも参加の子には記念品を進呈。

… 楽しむことはもちろん、3回にわたりグラウンドに来ることで、子どもも親もチームの雰囲気慣れてくる

→ きっかけを作る



現在の課題

- 勝てない
 - … 投球制限や全員出場、フェアプレー
運動が苦手な選手の増加

対策 → 成長記録のフィードバック
地域幼稚園との連携 幼児トレーニングの体験会
チームのアカデミー化？

- * チームの選手数の増加が、問題の解決ではない
野球界をどう活気付かせるのか

まとめ

- スポーツの新しい常識を知り、少年野球の現場で実践することが、いま私たちにできること(指導者・保護者)
- しかし、現場には新たな課題が想定される
- それを踏まえて、NPBや各野球連盟など野球界を代表する組織には、子どもたちを育てる新たな仕組みづくりを期待

- こうした総合的な取り組みによって、野球界の大きな進化に結びつけたい